

4 雑踏警備業務 2 級特別講習 (H 28. 6. 8 ~ 9)

- 特別講習 受講者 46 名 合格者 23 名 合格率 50.0 %
- 再講習 受講者 3 名 合格者 2 名 合格率 66.7 %

田中 均	鈴木 衛詞	口田 克己	酒井 和正	平川 満
宮野 真吾	荒谷 貴宏	松尾 吾郎	武仲 孝志	中村 典仁
松井 正弘	石田 浩司	長塚 裕司	久保 景司	安田 由香
八十川 正友	佐藤 誠一郎	田口 健	秋山 栄一	他 6 名



(雑踏 松浦 考査員)



(開校式に臨む受講生)

## 特別講習講師からのアドバイス

**「特別講習講師 道家清孝講師」**



- 株式会社 セキュリティー 警備部 課長
- 特別講習施設業務別主任講師

**【事前講習を実施していること】**

特別講習講師になってから、16 年が過ぎましたが、最近、事前講習を実施していて、いくつか思うことがあります。特に思うことが 2 つあります。

まず 1 つ目は、警備員動作の基本であり、採点項目にもある基本動作を修得していない受講生が多いことです。

主なポイントは次の通りです。

- ・ 「気をつけ」のとき、体側に付けた手の親指のみ離れ五指が揃っていない
- ・ 「休め」のとき、後ろに組んだ手がベルトのラインより下にあたり、手首を

つかみ手の甲をつかんでいない

- ・ 「右向けー右」のとき、軸足の右足の動きに左足が遅れたり、両足を揃えるとき軸足の右足を移動させてしまう
- ・ 「まわれー右」のとき、左足のかかとを引いた足のつま先で回転したり、両足を揃えるとき左足を移動させてしまう

以上のポイントを、各社の指導教育責任者又は教育担当者の方が把握していただき、事前講習までに受講予定者に基本動作を修得させておくことが、合格への第一歩になりますからしっかり指導していただきたいと思います。

2 つ目は、実技訓練の手順と文言を習得してきていない受講生が多いことです。

この時点で、手順と文言を習得していないと合格するのは難しいです。なぜなら、事前講習から本講習まで、1 週間程しかありませんから、手順と文言を習得できても身体まで動きませんから厳しいです。ですから、協会から事前講習 3 週間ほど前の本講習受講受付時に、資料を配付しているのです。

次に手順と文言を習得する方法のいくつか例を挙げます。参考になれば幸いです。

- ・ 資料を見て手順を確認しながら、声を出して文言を何回も繰り返して読む
- ・ 文言をボイスレコーダー等に録音し資料を見て手順を確認しながら何回も聞く
- ・ 習得できたと思ったら、頭で手順を追い、文言を言いながら紙に書き、一字一句誤りが無いかを確認する

上記の方法等で合格するために習得してから事前講習に臨みましょう。

以上、特に思うことを 2 つ上げましたが、合格するためには本人の努力が一番必要ですが、所属会社等の周りの方の協力も必要です。一人でも資格者を増やし警備員と会社のレベルアップを行い業界発展のため共に頑張りましょう。



(施設業務特別講習の実技訓練の様様)

